

教科	国語科	科目	現代の国語	単位数	2	学年	1
学科 ・ コース	普通科 特進コース・看護医療進学コース						
教科書	『現代の国語』東京書籍		副教材	『現代の国語 学習課題ノート』東京書籍 『書いて覚える漢字練習ノート二訂版』啓隆社 『三訂版 よむナビ現代文 基礎編』いいずな書店 『新総合 図説国語』東京書籍 『三訂版 ほんものの力がつく 現代練習帳 このは』いいずな書店 (看護医療進学コースのみ)			
科目の概要	<p>「言語文化」とともに高校一年生が全員履修する共通必修科目である。</p> <p>実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成に主眼を置き、自分の思いや考えを広げたり深めたり、表現したりする力を伸ばすことを学習の目標とする。中学校までの国語の学びと関連づけて、その内容を発展させ、総合的な言語能力を育成する科目として位置付ける。また、国語だけでなく、他教科の学習の基盤、特に言語活動の充実に資する国語の資質・能力の基礎を確実に身につけることを目標とする。</p> <p>論理的文章及び実用的な文章などを中心に扱い、正確に読解するだけでなく、情報同士の関係を分かりやすく整理し、それを効果的に発信する手段なども考える科目とする。</p>			評価の観点	<p>【知識・技能】言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解しているかどうか。話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、分かりやすさなどに配慮した表現や言葉遣いを理解しているか。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】文章に表れているものの見方・考え方を正しく捉えた上で、そこから得られた自分の思いや考えを正しく表現できているか。</p> <p>【主体的態度】自分の考えを伝えるだけでなく、他者の考えを聴き、相互に交流することを通して実社会で求められる言語能力を伸ばそうと努力しているか。</p>		
	授業内容	<p>①書くこと②話すこと・聞くこと③読むことの領域の3つについて学習する。特に①、②に重点を置き、学習頻度の割合は、2：1：1程度とする。資料や文章を読むことを通じて、書く、話す・聞くことの学習につなげるので、コミュニケーション重視の授業になる。</p> <p>(以下は、学習単元)</p> <p>【1学期】視点を変える、言葉へのまなざし 課題の設定</p> <p>【2学期】メディアを考える、共に生きる情報の収集、整理・分析</p> <p>【3学期】科学から見た人間、近代の先へ まとめ・表現</p>			評価方法	<p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を2：2：1の割合で判断する。</p> <p>定期考査、ノートや副教材などの学習内容、授業態度、学習意欲、提出物の内容および提出状況、小テスト、自己評価などで総合的に判断する。</p>	
				学習方法	<p>予習として本文を何度も読み、読めない漢字、意味のわからない語句などを辞書で調べておく。授業には集中して取り組み、ペアワークやグループワークなどの協働学習では主体的・積極的に参加する。学んだことを整理し、どのように他者に発信すれば正しく伝わるかを常に意識する。</p>		
				備考	<p>漢字検定の全員受検に向けて、適宜検定対策を取り入れる。</p>		

教科	国語科	科目	現代の国語	単位数	2	学年	1
学科 ・ コース	普通科 幼児教育コース、総合キャリアコース、英語コース、スポーツコース、音楽コース 美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	『精選現代の国語』東京書籍	副教材	『精選現代の国語 学習課題ノート』東京書籍 『書いて覚える漢字練習ノート二訂版』啓隆社 『新総合 図説国語』東京書籍				
科目の概要	<p>「言語文化」とともに高校一年生が全員履修する共通必修科目である。</p> <p>実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成に主眼を置き、自分の思いや考えを広げたり深めたり、表現したりする力を伸ばすことを学習の目標とする。中学校までの国語の学びと関連づけて、その内容を発展させ、総合的な言語能力を育成する科目として位置付ける。また、国語だけでなく、他教科の学習の基盤、特に言語活動の充実に資する国語の資質・能力の基礎を確実に身につけることを目標とする。</p> <p>論理的文章及び実用的な文章などを中心に扱い、正確に読解するだけでなく、情報同士の関係を分かりやすく整理し、それを効果的に発信する手段なども考える科目とする。</p>			評価の観点	<p>【知識・技能】言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解しているかどうか。話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、分かりやすさなどに配慮した表現や言葉遣いを理解しているか。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】文章に表れているものの見方・考え方を正しく捉えた上で、そこから得られた自分の思いや考えを正しく表現できているか。</p> <p>【主体的態度】自分の考えを伝えるだけでなく、他者の考えを聴き、相互に交流することを通して実社会で求められる言語能力を伸ばそうと努力しているか。</p>		
	授業内容	<p>①書くこと②話すこと・聞くこと③読むことの領域の3つについて学習する。特に①、②に重点を置き、学習頻度の割合は、2：1：1程度とする。資料や文章を読むことを通じて、書く、話す・聞くことの学習につなげるので、コミュニケーション重視の授業になる。</p> <p>(以下は、学習単元)</p> <p>【1学期】自己と他者・認識を深める、言葉と社会、課題の設定</p> <p>【2学期】言葉と社会・共に生きる、情報の収集、整理・分析</p> <p>【3学期】世界を広げる まとめ・表現</p>			評価方法	<p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を2：2：1の割合で判断する。</p> <p>定期考査、ノートや副教材などの学習内容、授業態度、学習意欲、提出物の内容および提出状況、小テスト、自己評価などで総合的に判断する。</p>	
学習方法		<p>予習として本文を何度も読み、読めない漢字、意味のわからない語句などを辞書で調べておく。授業には集中して取り組み、ペアワークやグループワークなどの協働学習では主体的・積極的に参加する。学んだことを整理し、どのように他者に発信すれば正しく伝わるかを常に意識する。</p>					
		備考	<p>漢字検定や模擬試験に向けて、適宜検定対策や過去問対策を取り入れる。</p>				

教科	国語科	科目	言語文化	単位数	2	学年	1
学科 ・ コース	普通科 全コース 美術科 アート・イラスト・アニメーションコース						
教科書	『精選 言語文化』東京書籍		副教材	『精選 言語文化 学習課題ノート』東京書籍、 『新総合 図説国語』東京書籍、 『新精選古典文法 三訂版 準拠ノート』東京書籍、 『新精選古典文法 三訂版』東京書籍（特進コースのみ）、『Key&Point 古文単語 330』いっずな書店（特進コースのみ）、『必携 新明説漢文』、『新明説漢文ノート』尚文出版（特進コースのみ）			
科目の概要	<p>「現代の国語」とともに高校一年生が全員履修する共通必修科目である。</p> <p>上代から近現代に受け継がれてきた日本の言語文化への理解を深めることに主眼を置き、日本の言語文化の担い手としての自覚を育み、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことを学習の目的とする。</p> <p>特に古典の世界に親しみ、時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化を知り、現代の言葉とのつながりを理解する。</p> <p>本科目で学習したことを活かして、国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>			評価観点	<p>【知識・技能】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解しているか。古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまりなどを理解しているか。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】作品や文章に表れているものの見方・考え方を正しく捉えた上で、そこから得られた自分の思いや考えを正しく表現できているか。</p> <p>【主体的態度】自分の感性を磨き、語彙力を高め、生涯にわたって必要な国語の力を伸ばそうと努力しているか。</p>		
授業内容	<p>現代文と古典（古文、漢文）の2分野を学習する。その内訳は1：2程度とする。また、読むことに重点を置くが、書くことの学習も適宜入れる。（以下は教科書の学習単元）</p> <p>【1学期】 現代文編：随筆 古文編：古文入門</p> <p>【2学期】 現代文編：小説Ⅰ 古文編：随筆、歌物語 漢文編：漢文入門</p> <p>【3学期】 現代文編：作品を読み比べる 古文編：日記、和歌</p>			評価方法	<p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点で2：2：1の割合で判断する。</p> <p>定期考査、ノートや副教材などの学習内容、授業態度、学習意欲、提出物の内容および提出状況、小テスト、自己評価などで総合的に判断する。</p>		
				学習方法	<p>予習として本文を何度も読む。その際、読めない漢字、意味のわからない語句などを辞書で調べておく。</p> <p>授業には集中して取り組み、ただ板書を写すだけでなく、自分なりのノートを作成できるよう工夫する。</p> <p>復習では高い意識で家庭学習にのぞみ、授業で習った文法事項などを定着できるよう反復練習を行う。</p>		
				備考	<p>iPad を活用した探究活動を適宜行う。</p>		